

第8回医療・介護関係者の研修「多職種連携事例検討会」報告

令和3年3月18日(木)14:00～15:30 オンライン 参加者：69名

テーマ：～地域で生きるために～「認知症独居高齢者支援への多職種連携」



座長：小林こころのクリニック 小林 実氏

パネリスト：早川内科クリニック 早川雅弘氏

枝吉調剤薬局 宮城 要氏

西区社会福祉協議会 加上昌子氏

玉津あんしんすこやかセンター

ポリライフケアサービス(事例提供)

神港園ホームヘルプセンター

岡本健吾氏

西本由紀子氏

松尾寛子氏

《内容》パネリストによる事例検討(専門職としての課題と多職種連携)

早川氏：通院をされている時には信頼関係が出来ていると考えていた。しかし認知症の方の場合、急に関係性が変化することもある。医師の場合他職種に比べて接触時間が少ない。他職種から情報を得る事で今後の対応が明確になる。情報交換を密にしていく事が課題。

宮城氏：信頼関係が大切。関係者から情報を得て患者の背景を知って訪問し、その方の生活にあった薬の服用の仕方や内容を考えていく。本人の意向を把握し他の職種の方と対応の仕方を揃えることが大事。無理に薬を飲ませる方向では考えていない。

加上氏：情報共有の機会を通じて役割分担をしていく必要がある。フォーマル・インフォーマルサービスを活用し、本人の思いと専門職それぞれの役割をすり合わせていく事が大事。

岡本氏：本人の資産・負債に本人の生き方や考え方を加味して本人の課題をとらえ、ケアマネジャーの考える課題とすり合わせをし、幅広い資源の中から関わってもらう方を一緒に考えていく事があんしんすこやかセンターの役割。これまでの繋がりを活かし、よりベターを目指す。

西本氏：今年1月からケアマネジャーとして担当。担当者や事業所が変わり、本人の混乱を招いたり、これまでの関係者との雰囲気壊してしまう恐れも感じた。今は気心の知れた関係者同士、顔を見て話すことで良い方向に進んでいる。多くの訪問がされており、情報交換の中で本人の良いタイミングを図り、家族の意向もくみ取った支援につなげたい。

松尾氏：認知症の方の場合、まず家に入れてもらうことが難しい。話を聴き、観察し、訪問介護としてのアセスメントを行う。掃除や調理は目的でなく、どの様な生活をしているかを知る手断。そのための観察が必要。その方を支えるための情報を、ケアマネジャーに発展させてもらえる様に、いかに伝えていくかが、サービス提供責任者の大事な役割。

小林氏：それぞれの職種で見える課題があることに気付くことができた。気ままに生活したいという事が本人の希望。サービスにのせる方が安心だが、本人の希望に寄り添う事が必要。また、本人と家族の希望をつないでいく事も必要。

《アンケートより》 アンケート回収数：40 (回収率95%)

本日の研修会は役立つものでしたか？

大変役に立つ	21人	53%	役に立つ	19人	47%
--------	-----	-----	------	-----	-----

医療介護の多職種連携は、進んでいますか？

できている	4人	10%	できていない	2人	5%
-------	----	-----	--------	----	----

努力している	33人	83%	困っている	1人	2%
--------	-----	-----	-------	----	----

本日の研修会は貴方にとって役立つものでしたか？(自由記載)

- ・事例を通して地域での多職種連携の考え方や大切さを感じた。
- ・多職種連携の必要性はどの職種も感じている事だと改めて認識できた。
- ・情報共有の為の多職種連携の重要性を感じた。

